

みんなの俳句

俳句 ことばき俳句会

野良猫の甘え寄り来る秋日暮
喜寿となる我に九十五の姑敬老日
暖かく野菜も花も秋忘れ
秋暑し汗にじませて御輿の子
リフォームす記憶うすれる秋裕
敬老会昭六生まれ招かれり
長らえて十勝野澄める秋祭り
泡立草勝手に生りて八頭身

大山さよ子
越坂 順子
徳地はつ子
福澤 米子
福原 仁子
橋本 葉子
宮部あき子
高橋 悦子

川柳 上浦幌句の会

あじさいにそつと頬よせ猫通り
きままるの笑いに乗って揺れるバス
自然の美人間の依怙にて壊される
久し振り友と語りし時計忘れ
寂しさを紛らす琴に身をゆだね
孫の笑やぶれジーン膝こそぞう
オンネ沼色あざやかに波しずか
日銀はお金回る鍵を持ち
空が割れ集中豪雨に人感う

自由吟
福田すま子
芳川 乙美
朝日ヒロエ
笹島カヨ子
経堂 ハナ
河村みよ子
山田 ナツ
大西 功
山田エツ子

川柳 浦幌川柳会

課題吟 本音
思い切り本音吐いてのさようなら
身の丈の本音のエプロン愛も染め
反応が怖くて本音にチャックする
愛煮つめ本音煮つめて夫婦箸
食文化瑞穂の国の灯は消せず
いらだちに本音の顔が見えかくれ
どの顔も本音が見えずトンボの目

橋本 葉子
阿部 麗紅
山村 幹雄
白木二十重
竹村 鮮明
星 愛子
加藤 未貴

短歌 浦幌短歌会

牧草地鶴の親子が探してるカエルかバツタか獲物は何か
ビクトル・ユーゴと名付けある赤き薔薇期待たがわず華やきて咲く
振れば翔つもののごとくに騒がしき小瓶の底の貝やら珊瑚
手を上げて大型車のドライバーは挨拶をせり遠ざかり行く
七千人切った人口この町のひとりよ油絵に描く庭のひまわり
チモシーの種となる原を通り抜けオベトン橋をわたりて帰る
をみなへしに取って代りて泡立草の黄の色たつぷり供花となれり
団体の早口にきく韓国語鉤網線の車輛をうめる
煩惱の果てにさいなみて石を積む夢追草の枯れる日々あり

米司 好美
柴田 弘子
高橋 悦子
長谷川アキ
福澤 米子
山崎 阿巳
山口 恵子
後藤 年子
星 愛子

編集後記

■上中央小の食育の取材で、食のバランスについての話が あった、おかし好き、野菜嫌いな我が子の顔が浮かぶ、食育を家庭でもと思ひ、少しは厳しくするぞ(自分にも)。(克)

■合同遠足の取材で園児と一緒に森林探索。足を滑らせ尻もちをつきました。園長先生の「雨が降った後なので気をつけましょう。」の挨拶を思い出し恥かしかったです。(く)

■掲載された写真は、差し上げますので(本人または家族)、お気軽にご連絡下さい。